

(別紙)

障害福祉分野のロボット等導入支援事業(令和4年度第二次補正予算分)
(施設等に対する導入支援分) 事業報告書

自治体名 福井県

【基本情報】

Table with 2 columns: Field (フリガナ, 法人名, etc.) and Value (シャカイフクシホウジン コウドウエン, etc.). Includes total staff count of 30.7.

(1) 主な導入機器内容(種別・機器名等)

- 機器の種別: 移乗介護, 排泄支援, 入浴支援, 移動支援, 見守り・コミュニケーション

(2) ロボット機器等導入前の定量的指標及びロボット機器等導入後の定量的指標

① ロボット機器等導入前の業務時間内訳

Table showing business hours breakdown before robot introduction with columns for business content, staff count, occurrence count, and time.

- ※1 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援
※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等
※3 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

以下の※1及び※2については、ロボット機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

現在寝たきりの利用者は2人おり、巡回は1日6回(日中午前1回、午後2回、夜間3回)。利用者の排尿支援が巡回時の1日6回。1日当たりその利用者が日中1回、夜勤帯1回の計2回の失禁をした場合に服装などの更衣が必要になり、移動や移乗が必要になってきます。

<※2>D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

寝たきりの利用者に対して、失禁した場合の服などを着替える時間が30分。排尿などにより、パットやオムツの交換などに10分。館内の巡視に1回に約15分。パソコン等への記録の打ち込みに5分。

② ロボット機器等導入後の業務時間内訳

Table showing business hours breakdown after robot introduction with columns for business content, staff count, occurrence count, and time.

以下の※3及び※4については、ロボット機器等導入後の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※3>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

巡回は1日5回(日中午前1回、午後2回、夜間2回)で夜勤帯が1回巡視を減。利用者の排尿支援が巡回時の1日5回。1日当たりその利用者の失禁回数が2回から1回に減。見守り機器の使用や確認は、巡視の前に確認をする。

<※4>D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

寝たきりの利用者に対して、失禁した場合の服などを着替える時間が30分。排尿などにより、パットやオムツの交換などに10分。館内の巡視に1回に15分。パソコン等への記録の打ち込みに5分。見守り機器の使用や確認に3分。

年間業務時間数想定削減率(%)

14.3%

(3)削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

--

(4)ロボット機器等の導入により得られた気づきや今後の課題等について必ず記載すること。

排尿の訴えがない利用者の排尿のタイミングを介護ロボットの導入で知ることが出来ることが利用者の新たな気づきとなる。今後の課題としては、排尿のタイミングをデータ化をして、利用者のパターンを探っていき、ベストな排尿のタイミングを見つけていくことが今後の課題である。

--

(5)費用面での効果(ロボット機器等の導入による費用の縮減の有無を必ず選択すること。)

ロボット機器等の導入による費用の縮減	有
--------------------	---

ロボット機器等の導入による費用の縮減が「有」の場合、以下を回答すること。

縮減額(円)	
職員の賃上げ等への充当	無
その他職場環境の改善への充当(※1)	有
サービスの質の向上に係る取組への充当(※2)	有

(※1)その他職場環境の改善の具体的な内容について記載すること。

排尿のタイミングが計れず、失禁してしまった場合、全身更衣などにより、職員の負担が相当数あったが、排尿のタイミングが介護ロボットにより図れたことにより、失禁の回数が減り、職員の業務の負担が減り、職場環境が改善されている。

--

(※2)サービスの質の向上に係る取組の具体的な内容について記載すること。

排尿のタイミングが計れず、失禁をすることにより、服が濡れて不快に思いをしたり、夜勤帯であれば利用者も寝ている時間帯の睡眠を妨げられたりして、身体的にも精神的にも負担感じていたのが、排尿のタイミングが介護ロボットにより図れたことにより、失禁の回数が減ったことにより、利用者が身体的、精神的負担も軽減されて、サービスの質の向上が図れた。

--